
平成 28 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

平成 28 年 9 月 30 日
栃木県農業環境指導センター

メボウキ (バジル) ベと病の発生について

1 病害名：メボウキ (バジル) ベと病

2 病原菌：*Peronospora belbahrii*

3 発生作物名：メボウキ (バジル) 品種：スウィートバジル)

4 発生経過

平成 28 年 7 月下旬に栃木県県央部の施設栽培メボウキ (バジル) において、葉の黄化や、葉裏に黒～灰色のかびを生じる症状が認められた。

農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、菌体の形態観察に基づき、本病は *Peronospora belbahrii* によるメボウキ (バジル) ベと病であると診断された。

栃木県内では、本病害の発生は初確認であるが、国内では、茨城県、静岡県、神奈川県、愛知県、大分県、沖縄県などで発生が確認されている。

5 発生状況

1) 初確認年月日：平成 28 年 7 月 29 日

2) 発生確認地域：栃木県県央部

3) 発生確認面積：10 a

6 病徴

発病初期には、葉表は黄化症状を示す事がある (写真 1、2)。また、葉裏に菌体による灰白色の霜状の症状が認められる (写真 3)。病徴が進展すると、葉裏が黒～灰白色の菌体で覆われ、やがて葉枯れ症状を示して容易に落葉するようになり、進展すると立枯れ症状を起こす。

7 病原菌と伝染

罹病葉における菌体を光学顕微鏡により検鏡すると、無色透明で 5～8 回分岐した分生子柄と、オリーブ色で垂球形の分生子が容易に観察できる (写真 4)。

病原菌は発病株及びその残渣が伝染源となり、分生子により空気感染する。また、海外では種子伝染することが報告されている。

宿主として、シソ科メボウキ属、カワミドリ属及びコリウス属の一種が報告されている。

8 防除対策

(1) 本病は多湿条件で発生が助長されるため、密植を避け、通風・採光・排水をよくする。

(2) ほ場内をよく観察し、早期発見に努める。症状を確認した場合、罹病株もしくは罹病部位を速やかにほ場外に持ち出し、適切に処分する。又は、登録のある薬剤 (ランマンフロアブル、レーバスフロアブル) を散布する。

(3) 栽培終了後は、ほ場内に残渣が残らないよう、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。



写真1 罹病株の地上部全体像

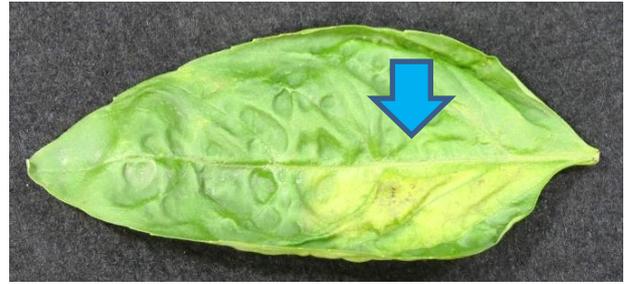


写真2 葉表の黄化症状

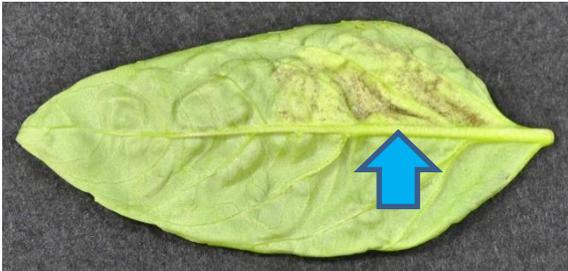


写真3 葉裏のかび症状

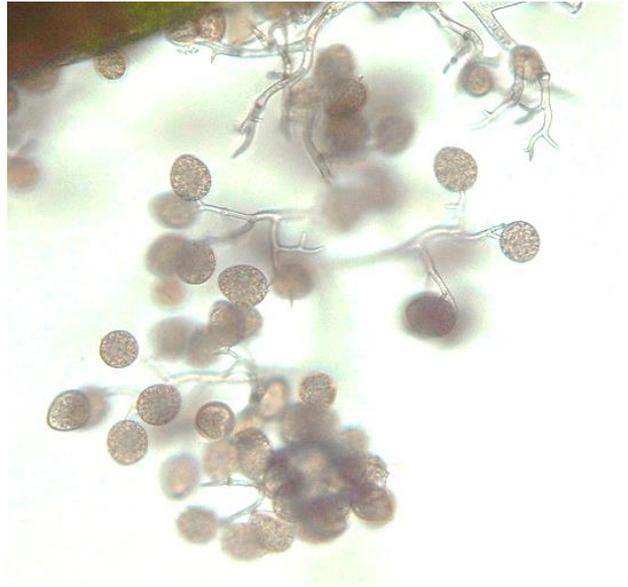


写真4 本菌の分生子および分生子柄

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。
病虫害情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。